

【農産部会】

より広く、深く、具体的に

担当メンバー

信末清（会長）、斉藤公雄（副会長）、蓬臺雅吾（幹事役員）、右田秀利（幹事役員）、後藤和明（副会長・らでいっしゅぼーや商品部長）、横山徹（同農産開発課長）

Radix 農産部会

今期の農産部会は、前期までの蓄積を糧として、研究員など人員の拡充を行ない、活動をより広く展開していきます。

1. より幅広い情報共有を
……部会運営

■各集会：4月14日に開催されたらでいっしゅぼーや大阪支社主催の「つくる人たべる人とどける人の集い in WEST」をはじめ、秋の北海道生産者集会（予定）など、全体的な取り組みへの協力・助成を行ない、農産部会の活動についての情報共有を各地の生産者と進めていきます。

■部会運営：また、現在の部会構成員として、個々の活動に応じて生産者会員、らでいっしゅぼーやスタッフよりの参加をお願いしつつ、より開かれた部会活動を進めていきます。

2. 土作り、作物作り
……技術向上のための活動

■小祝塾：1月よりスタートした2001年「小祝塾」は、ジャパンバイオファーム代表であり、Radixの会農産部会アドバイザーの小祝政明さんを迎えて良質な堆肥作りをメインテーマに、生産者とともに学びあう勉強会。5月の北軽井沢編までで3回を終了し、今後は9月、11月と北軽井沢での実践編を進めます。

■作物別技術交流集会：らでいっしゅぼーやで推進している「作物別技術交流集会」には、参加会員への土壌分析



サービスという形で協力・参加。品質向上のためのお手伝いをします。

■生産者パソコン教室：また、今年1月より基礎編として4回開催してきた「生産者パソコン教室」は、秋に向けて実践編として再スタートを予定。土壌分析→施肥設計の流れを、パソコンを使って効率よく組み立てるための実習がメインです。

3. より深く掘り下げる
……研究調査等

■堆肥作り研究：良質な堆肥を作るためのノウハウは？ 小祝塾で進めている勉強会の中身を具体的に実証してみよう。昨年夏より開始された北海道坂東俊和さんのご協力を得て進めている堆肥作り研究は、昨年改良・製造された堆肥をほ場に投入し、玉ねぎの作付けが行なわれました。今年にはほ場対照区の設定による生育調査と、次年以降の堆肥作りについて追跡調査していきます。

■代替資材研究Ⅰ：改正JAS法のもと、私たちが安心して使える農業資材は何か？ 会では数ある資材のうち、施肥・土壌改良に使用される資材についての調査を、昨年より継続して進めています。

■代替資材研究Ⅱ：これからの野菜に求められる「質」とは、いったいどのような「質」なのでしょう？ 安全性だけでなく、栄養面など野菜が本来持っている価値、そしてその価値を高める栽培技術が生産者に求められます。

今年には施肥設計と作物の栄養価などの相関関係を、実際の畑での栽培試験で調査していきます。本試験の準備段階として、栃木太陽の会の畑をお借りし、



今年より農産部会の主任研究員となった成田国寛氏がこれにあたります。

4. みんなが土壌分析を！
……補助支援等

■土壌分析器機購入補助：よい野菜作りには、生産者自らが畑の状況を客観的に把握することが大切。そこで今年は秋より、生産者の簡易土壌分析キットの購入に対して助成を予定しています。

■残留農薬・食味栄養分析補助：作物固有の栄養や食味について、らでいっしゅぼーや新設の農産管理課では今年より基礎調査を開始することとなりました。また、生産者の協力を得ながら、栽培方法と農薬残留の関連性についても調査を進めます。いずれも会で進めているほ場での栽培試験に並び、今後の栽培の方向性についての貴重な資料となることを見込まれ、らでいっしゅぼーやのこうした活動に対し助成を行ないます。

……このように、今年の農産部会では技術向上に向けた取り組みをより具体的に進めていく予定です。またこうした取り組みを縦横に広げながら、地域ごと、作目ごとの生産者同士のつながりが深まるよう進めていきたいと考えています。ぜひ皆様の積極的な参加とご協力をお願いします。